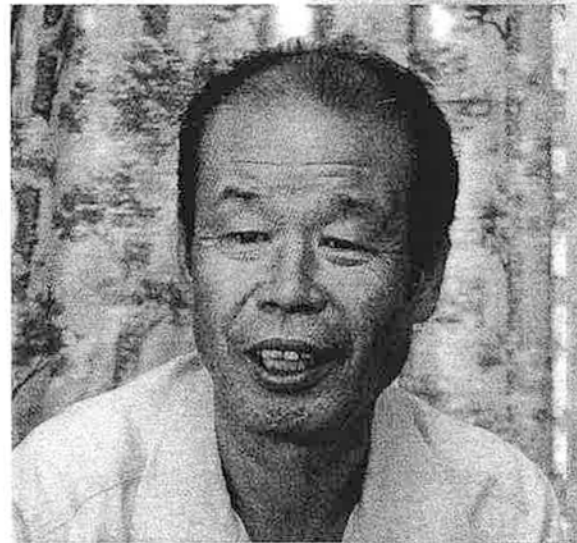


若くして独立し、辛苦を嘗めてきた岩瀬氏だが、常にチャンスに強かったのは、“仕事は自分で作り出すもの”という信念があったからこそ。オリジナルにこだわり、「培ってきた経験と知識を後進に伝えることがこれからの仕事」と笑顔で話す心の広さこそが、まさに我々が学ばなければいけない部分ではないだろうか。



◎代表取締役

岩瀬 義雄

◎タレント

輪島 功一

×

ITを駆使した栽培システム 技術と経験を次世代へ

『オリジナルリティーの追求は生涯続きます』

『これからは創造力が必要な時代なんです』

輪島 精密機器の製造をされているそうですが？

岩瀬 はい、大型コンピュータの基盤や印刷用のインクを送る機械をメインに製造しています。以前はビデオ等も作っていたのですが、大量生産は海外の方が格安ですし、違う分野を広げているところでした。特殊な機械の製造ですので、ほとんど手作業で行っているのですが、その作業に必要な機械も、当社で開発したんです。

輪島 特殊な製品を作るため、特殊な機械を開発されたわけだ。ところで社長は、この業界は長いのですか。

岩瀬 約三十七年になります。輪島さんは同世代ですからお分かり頂けると思いますが、私は戦中生まれで、物のない時代に育ちましたね。生まれは満州で、当時満州は好景気でしたから私も幸せな日々を送っていました。ところが戦後の日本は本当にひどかった。

食べ物もろくになく、満州帰りの私は言葉もよく分からない中、這い上がろうと必死で努力を重ねましたよ。昼は職業訓練学校、夜は夜間学校へ通い、社会へ出てサラリーマンになったのです。そして昭和三十九年に独立しました。あの頃の苦労を考えると、今は何も苦労に思えませんか(笑)。それが今まで頑張ってきた、自分の原動力になっていると思います。

輪島 私も同じような経験があるからよく分かりますよ。現代には現代の苦労があるのだらうけど、食べられないことを思えば、非じゃないと思うなあ。

岩瀬 独立した当時も不況で、仕事らしい仕事はなかったですね。その中で、仕事は人から与えられるものじゃない、自分で作り出すものということを知り、痛いほど学びました。そして友人のアドバイスもあって、光学機器、双眼鏡等を作り、全国販売を始めたのです。

精密機器が製造される様子を見学し、感心する輪島さん▶



しかし昭和四十二年、海外に受注が集中し、光学機器業界が大不況に……。そこで、昭和四十三年から電子基盤をベースに、一から始めることにしました。その後好景気に転じたのですが、ニクソンショックで円高、次いでオイルショックと、立て続けに不況の波が

、このように見ると、我々

襲ったのです。

輪島 私はちょうど結婚した時で、当時のことはよく覚えていますよ。世の中がひっくり返ったみたいでしたね。

岩瀬 最近でいうバブル崩壊のようでしたよね。浮かれず地道にやっていた者だけが残った。私達は浮かれたくても浮かれている場合じゃなかったのが良かった(笑)。それから現在まで様々なことがありましたが、人は時代を選べませんし、昔のつらい体験で、自然と生き抜く術を身に付けていたのかも知れませんね。

輪島 昔の人はすごい(笑)。激動の時代を生き抜いてきた強さが感じられますね。それで、電子基盤というところの様な仕事が多かったのですか。

岩瀬 多種多様でしたね。家電製品やコンピュータなど、たくさんさんの電化製品が生まれた時代でしたから、小型モーターを使った製品は全てでした。家電にとどまらず、医療機器や大型機械まで、幅広く利用されていましたから。

仕事は与えられるものではない 自分で作り出すもの

輪島 一番元になる発明という、難しい仕事を完成させてこられたのですから、社長が現在の精密機器業界に、飛躍的な進歩をもたらしたと言っても過言ではありませんよ。そうして今まで様々な転機が訪れ、またチャンスを生かしてこられた結果が、現在の仕事に結び付いているんですね。



後に、自分の製品を作らなければ生き残っていけないと痛感していましたので、何点か試作品を手掛けました。その時、大手商社との出会いがあり、現在もお付き合いさせて頂いています。しかし自社オリジナル製品だけでは難しいのが実情ですから、注文を受けた商品を作りながら、徐々に自社製品も認識してもらえようになりました。受注製品だけでも十分なのですが、先程も言いましたように、独立した時に学んだ、「仕事は自分で作り出すもの……」という意識を持っていますので、少しずつでもそれを形にしていこうと、私の仕事だと思っています。

岩瀬 「オリジナル」特許」になるのですが、日本は特許といっても詰めが甘く、すぐに真似されてしまう。外国のように形式からシステムまで、全て引くるめて特許を取れるよう、完璧に作り出したいですね。それが今までの集大成であるような気がするのです。

培った技術を次世代へ 心のある伝承を

輪島 最近では「農業遠隔システム」を始められたそうですね。

岩瀬 農業には長年の勘と実績、経験が大きく、三六五日休みなしが常識とされてきました。それを、全ての植物の栽培状況をデータベース化し、コンピュータ制御することで、一定の状態を保つことを可能にしたのです。そしてこれをインターネットで遠隔操作し、温度・天窓の開閉・灌水量などのコントロールも実現しました。どこにいても、また突然の環境変化にも対応できますので、人手不足の解消、高齢者の作業負担の軽減、休日が確保しやすいなど利点は色々。これから農業を始めようと思っている方には受け入れられやすいと思いますよ。

輪島 それは本当に便利ですね。

岩瀬 我々がすべきことは、豊富な経験で培った技術を次世代へ伝えていくことです。それは悪いものを排除するのではなく、同じくらい大切であるという価値観、それを見分ける眼の養い方……。自分の周りの人達を大切にすることが失われつつあるといわれています。

すが、今の子供の親はというと、我々世代なんですよ。一概に子供世代を批判するばかりでは進歩がありません。反省しつつ、心を養う教育を親がしなければいけない時代にきているのではないのでしょうか。いつの時代も「今時の若者は……」という言葉が存在しますが、歴史はくり返されるといわれますし、樂觀的過ぎず、非観的過ぎず、今を一生懸命生きる姿を、子供達に残してあげたいですね。

輪島功一の 取材メモ

様々な困難を乗り越えてこられた社長の言葉から、いつの時代にも努力と発想が大切であることを気付かされた。自分も頑張らなきゃ、という元気をもらいました。

